

## なる様になる迄だ

彼女の愛らしい目が僕を見ている。  
何か話かけようとしている。  
しかし、僕から話かけるのを待つ表情。

ベンチに座り、じっと僕から、  
横に目をそらして、  
じっと、下向きに一点を見つめ、  
僕が話かけるのを待っている姿。

しかし、すべて、僕は、  
相手の気持ちを読むこともなく、  
冷たく、知らぬ顔で通りすぎた。

自分がまだ子供なんだとは  
僕は思いたくない。  
大人の様に、一人前の、  
映画で見るような、恋ができると思う。

昔は、十六で元服だ。  
源氏物語の光源氏だって  
十六才じゃなかったのか。

彼女と一緒にいたい。  
大好きだ。

この手で思いつきり、  
彼女を包みたい。  
甘えたい。

しかし、困った。  
八月八日は、どう対応したら良いのか。